

「助産師」という仕事に対して、皆さんはどのようなイメージを持たれていますか？助産師は、古くは「取り上げ婆」「産婆」と呼ばれていました。その後「助産婦」と呼ばれるようになり、平成14年には「助産師」という呼び方に統一されました。助産師とは「産むのを助ける師（先生）」と書きます。今回は現在の助産師の仕事がどのよ

うなものなのか、仕事の内容やその役割についてお話ししたいと思います。

助産師は正常なお産の場合、医師の監督なしで病院や家庭での出産に立ち会い、サポートすることができます。そのほかに助産院を開業することもできます。しかし助産師の仕事は出産を手助け（サポート）をすることだけではありません。



函館中央病院
看護師長(助産師)

藤井 真紀さん

思春期の性教育に始まり、結婚後の家族計画や妊娠に関する指導、妊婦健診、妊婦や夫への教育（母親学級・両親学級）、栄養指導、バイスプラン（出産計画）のヒアリング、育児支援、退院後の生活指導、妊娠から産後までの心の支援などがあり、ほかにも女性がかかりやすい病気の相談にも乗っています。

このように思春期から中高年まで、幅広く女性の健康な生活を支援できる能力が助産師には求められており、女性の一生に関わる職業だと言えます。

現代は核家族化が進み、出産数も減少しています。地域や家庭で育児に関わる機会が少なくなり、子育てを学ぶ体験ができなくなってきています。

こうした中で児童虐待が社会問題となっっています。出産後、地域に帰っていく母子が健康に幸福に生活できるような環境を整えていくために、助産師は医師やソーシャルワーカーなどの多職種とともに地域と連携していくことが必要です。



函館中央病院

函館市本町33-2 ☎0138-52-1231(代)
<http://www.chubyo.com/>

診療科目／内科・消化器内科・循環器内科・眼科・小児科・外科・整形外科・形成外科・脳神経外科など全17科目
受付時間／9:00～11:30・14:00～16:00 ※土曜は午前のみ。科や時間帯によっては要予約。
休診日／日曜・祝日